慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	農業と商工業の衝突
Sub Title	
Author	堀切, 善兵衛
Publisher	三田学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.5 (1914. 6) ,p.527(21)- 538(32)
JaLC DOI	10.14991/001.19140601-0021
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140601-0021

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

年並に千九百十二年相次いで幾多の同盟罷業發生し、關係人員の多數なる延日數の增加せる二點に於て、共に從來の記錄を破り、一方に勞働運動の鼓吹者中、シンヂカリズムを主張し、勞働者中同盟罷業に乘じて、暴行を試みる者あるや、一部の人士は之を以て英國職工組合主義の末路とし、前途を悲觀するの傾なきを得ざりしが千九百十二年末より千九百十三年に至りて、商工業の好景氣を呈するや、勞働運動亦聊か溫和の狀に復したるは之を如何なる理由に歸す可きか。不景氣の際に勞働者が組合主義以外の手段に據り、好景氣に臨んで、組合主義に重きを置く舊來の沿革は卽ち此般の事情を示すものにして、僅に一二年間殊に商工業不景氣の時代に起れる勞働運動の變調を目して、以て將來の趨勢をトせんとするが如き、聊か輕卒の論斷たるを免かれざる可し。英國の勞働者中、シンヂカリズムを信奉する者あるの一事は之を否定す可からず。然るシンヂカリストをして行動の便を有せしめんとするには、職工組合の聯合、今日よりも鞏固となり大規模と爲り、而して更に是等組合互に合併して、產業的組合主義の實行せられたる後ならざる可からず。職工組合の聯合に困難あり、又組合の合併に新なる困難あることと今日の如くにして、之を期するは穩當ならず、況やシンヂカリズムの英國勞働社會に殺倒し來れるを斷定するに於てをや。

農業と商工業の衝突

堀切善兵衛

第三十一議會に於て經濟財政に關する議案中最も議論の沸騰したるは營業稅全廢の可否如何に在りき、全廢案に對し我商工業者の殆んど全部は之れを贊し、少くとも全廢論を主張して幾干にても餘分に營業稅の輕減を希圖したるは疑を容れざる所なり、然るに農民若くは直接商工業に關係なき職業に從事する者例へば官吏、醫師、辯護士、敎師若くは一般勞働者の如きは營業稅の存廢に對し多く利害を感せざりしが故に商工業者の運動に對し頗る冷淡の態度に出でたり、されは全廢論に反對する者は農工商各階級及有資本的階級と無資本的階級との間に負擔の均衡を保たしむる爲めには營業稅の改正輕減は可なりと雖も其の全廢は不可なりとの說を主張して撓を制したる次第なりき、然れども吾人は今後も尙此問題の我國に於て繰返さる可きを信ずると同時に一方農民に在りても亦商工業者の負擔

する營業税を全廢して差支なき迄に、我財政の狀態健全を來し國庫に餘裕を生じたる場合には必ず其負擔する地租も同じく全廢せらるゝか、然らざるまでも大に輕減せられざる可らざる事を主張せざれば止まざる可しと信ず、さりながら近き將來に於て我國の財政狀態が營業税と地租とを併せて同時に之を全廢し得可き程國庫に餘裕を生ず可しとも信ぜられず、從て商工業者の希望する營業税全廢案は結局農民の反對に依りて敗亡するに至る可し、斯の如きは農民と商工業者との利害の衝突する卑近の一例と見做なされざるに非ず。

更らに商工業者の見解よりすれば其の使用する勞働者の生活資料たる米麥其他の食糧品は成る可く其價の低廉ならんことを欲す可き理由あるに拘らず、農民は其生産物の價格が餘りに下落するは決して望まざる所なるを以て、或は米粃等に對する關税の撤廢に不同意を唱ふ可く、場合に依りて外國より輸入する農業品に對し各種の保護税を請求する事も無きに非らざる可し。況んや一方に於て工業保護の目的を以てする幾多の高率關税の存在する場合には彼等も亦農業保護の爲の高税率を希望する理由なしと云ふ可からず、然れども斯の如く商工業の生産品にも將た農業の産物にも高き保護税の賦課せらるゝに於ては一般勞働者若くは自由職業に從事する階級の生活を困難ならしめ、延いては商工業の發達をも阻害するに至る可きを以て、決して際限なく保護制度を實施す可きものに非らざるや言を俟たず、而して一國民の知識と技術とが大に發達して之れが爲め商工業の方面に於て他國と競爭して毫も怖るゝ所なきの曉には商工業者は殆んど何等の保護奬勵を必要と感せざるに至る可きのみならず、一方には自家の利益を感ず可き保護政策は依然として之を留保しつゝ先づ以て農業保護税の撤廢を主張するは自然の勢なるが如し例へば一九世紀の前半に於てカンニング、バスキソン、ピール、グラットストーン等に依りて實行せられたる英國の保護税撤廢の行程を見るに原料品及農産物に對する輸入税の撤廢は常に製造工業品に對する輸入税の撤廢に先ちたるは爭なき事實なり、又近時獨逸に於てハンザブンド其他の團體に屬する人士が商工業の發達を期せんが爲に農業保護に反對しつゝある其一方に保守黨一派は飽くまで其必要を主張して兩々相對峙するの有樣にして時に帝國議會内激論の交換を見ること少なしとせず、左記ハイデブランド氏の意見の如き其一

例を見るを得可し。

Gewiss haben Sie Personen unter sich, deren Landwirtschaftsfreundlichkeit über jeden zweifel erhaben ist, aber Sie haben auch Personen, die gar keine Berührung mit der Landwirtschaft haben und denen gegenüber man äusserste Vorsicht anwenden muss. Wollen Sie leugnen, dass der Hansabund die Berufsstände der Industrie tagtäglich gegen die Landwirtschaft verhetzt? Wir haben immer geglaubt, dass die Industrie einheitliche Interessen mit der Landwirtschaft habe und friedlich mit ihr zusammengehen könne; das haben Sie aber durch Ihren Hansabund bewirkt, dass beide Sich jetzt wie Todfeinde gegenüberstehen und das nennen Sie dann Sorge für die Landwirtschaft! Es ist eigentümlich, dass Sich jetzt vertreter der Sutzzollpolitik, die doch gewiss Landwirtschaft-freundlich ist, mit dem Todfeinde, dem Freihandel, verbinden. Da kann ich Herrn v. Bieberstein nicht unricht geben, menn er sagt, einer Partei, die Solche kolossale Gegensätze in sich birgt, müsse man mit grosser vorsicht begegnen. Die Partei will das wohl der Landwirtschaft, aber Sie bekämpt die Schutzzölle, die sie Braucht'

吾人は今此の議論中に果して幾千の眞理抱含せられつゝありやの問題を研究するは極めて趣味あることたるを感じ同時に商工業の利害と農民の利害とは果して一致するや否や保護政策は農民に取りて果して必要缺く可からざるものなりや否や果ては商工業者若くは農民は社會組織中の他の重要分子たる各階級の利害に何等顧慮する所なくして獨り自家の利益のみを主張するは社會の健全たる發達を期し國家の繁榮を計る所以なりや否や等の問題に付少しく論及せんと欲するものなり。

一

農業は云ふまでもなく商工業に從事する雇主若くは勞働者の生活資料を供給するものなり。從て其の生活資料の價格騰貴せば商工業者の生産費は夫れだけ增加するの道理なり、又其從業者の勞銀も其割合に於て騰貴せざる可らず、故に此種の關係に於ては商工業の利害と農業の利害とは相反するものなりと云ふを得可し、然りと雖も此關係のみを見て他の一面を觀過するは正鵠を得たるものと云ふ可らず、他なし、商工業と農業との wleckselbeziehung を有するの點卽ち之にして若しも

農業が繁昌せんか換言すれば其生産物の價格騰貴するか但しは豐作其他の理由に依りて價格は寧ろ下落するも總體に於て多額の收入ありたる場合には農民の需要俄然增加して之れが爲めに製造工業の生産品は頓に其販賣高を增するに至るや爭ふ可らず、卽ち農民の好景氣は間接商工業の上にも好影響を及ぼすに至る可きや必せり、殊に商工業者は其生産品を海外遠隔の地に送りて以て外國人の需要に應ずるよりは內國に於て其市場を見出さんこと遙かに危險少なきや明白なりと云ふ可し、之と同時に商工業の發達は又農業の上に好影響を及ぼすの事實も敢て疑ふの餘地なかる可し、例へば商工業發達、勃興して是れに從事するもの漸く多きに至るや各地に商工業の中心たる大都會發生するに至る可く、兼て商工業に從事する者多きに從ひ從來よりも多數の人口を同一國內に養ひ得るは爭なき事實なるを以て農業の生産品は其需要新たに加はり、遠隔の地に輸送するに不便なる肉類野菜其他腐敗し易き物品の如きも新たに其需要を見出し得るに至る可し。されば彼の獨逸工業中央聯合會の選手たるシタイマシ、ブッヘル氏が農工業の利害が全然一致すと唱導したるが如きは聊か語弊なきに非らずと雖も然も吾人は彼等の利害が一致ずと云はずして寧ろ相聯的關係を有すと稱するに於ては何等の差障へを見る事なし、彼のビスマークの如きは巧みに此關係を利用し農民をして商工業の保護に同意せしめ同時に製造工業家等をして農業保護に同意せしめ兩々相提携せしめて以て自家政策の便を計り由て以て其權力を維持したるは善く此關係を了解したるものと云ふ可きなり、然りと雖も農業と商工業とは元來同一比例を以て發達し得可きものに非らず、英獨諸國に於て何程農業に集約的方法を應用し以て同一面積より多大の收穫を取得せんと欲するも、報酬漸減の鐵則は必ず其働きを表現せざるを得ざるなり、卽ち獨逸の如き一九〇五年に於て一ヘクターより產出する小麥は一、八〇噸乃至一、九三噸に過ぎざりしもの一九〇九年には二乃至二、三七噸を產するに至り裸麥は同一ヘクターより一九〇五年には一、一噸乃至一、三七噸なりしもの一九〇九年には一、三七噸乃至一、八六噸に達し燕麥は一、五七噸より二、一二噸に達したるが如き著しき增加を呈するもの無きに非らずと雖も人口の增加と其需要の上進とは更らに著しく進步するもの有るが故に到底長く晏如たるを得可からず、加ふるに工業の發達進步は愈々ますく其原料

品を世界の各地より輸入し來るの利便を感ずるものあり、商業貿易の關係者等も務めて其活動の桎梏を撤去するの利なるを感ず可く、況んや一般勞働者及直接生産事業に關與せざる階級の人士等は保護政策の結果たる物價騰貴に對し嫌焉たる所あるを免れざるが爲め相率ゐて農業の保護に反對せんとするもの無きに非らず卽ち彼のハンザブンド若くは英國の勞働黨の如き主として之に反對の氣運を示すに至れるものとす。

然りと雖も農民の數が尙ほ一社會に於て比較的多數を占むるに於ては彼等の請求は政治的に相當の勢力を有せざるを得ず、從て近世の立憲國家に於ては容易に其利益を傷けらるゝことなしと雖も一度全人口に對する農民の比例失はれんか其利益は漸次に他の階級の爲めに壓迫を蒙らざるを得ざる可し。例へば獨逸の如き普佛戰爭當時に於て總人口の四割七分三厘なりし農民は一八八二年の四割二分五厘、一八九五年の三割五分七厘、一九〇七年の二割八分六厘と減少し來りしを以て今日彼等の勢力は頗る減退したる傾向あり、從て其發言權も亦多くの尊重を價せざるに至りしは掩ふ可らず。されば モルウオー教授の如きも Es muss dabei konstatiert werden, dass es kein Recht der Landwirtschaft gibt, das Ihr wegen ihrer grösseren wichtigkeit nach grösse der Bevölkerung oder Leistung für die Allgemeinheit eine Bevorzugung gegenüber der Allgemeinheit zubilligen liesse, also ihr einen Rechtsanspruch etwa verschaffen könnte, der dahin ginge, dass die Deutsche Landwirtschaft aus mittein der Allgemeinheit alimentiert würde. と論じたる決して故なきに非ずと云ふ可し。

更らに吾人は保護政策が農民に取り果して必要缺く可らざるものなるや否やの點に付き一言せんと欲す、農業保護稅の存在する限り農產物の價格が騰貴す可きとは疑なき事實なり、從て其生產物の大部分を賣却するの地位に在る大地主若くは中以上の地主輩は之れが爲めに利益するは爭ふ可からず、然れども小地主若くは小作人に至りては其收穫物は殆んど總て自家の消費に充當し盡す可きに依り穀物價格の騰貴は必ずしも彼等に取りて有利なりと云ふ可らず唯我國の或地方に於けるが如く小農又は小作人が其收穫せる上米を賣却して低廉なる內地米又

は外國米を購入して、自ら消費するが如き場合には米價の騰貴は彼等に取りても亦有利ならずとせず、此關係に於ては英獨諸國の例と同一に論ず可きに非らざるが如しと雖も然も一般的に之を論ずれば農産物の騰貴は農民全般の利益と稱する能はざるなり。曾て獨逸の帝國宰相たりしホーヘンローヘは自ら大地主たりしが故に農民の利害に付きては頗る考慮する所ありと傳へられたるが一八九六年議會に於て左の一節を述べたることあり。

Bestenfalls werden die Landwirtschaftlichen Betriebe von 6 Ha ab bei gutem Boden imstande sein, den Bedarf an getreide für den Bauer und seine Familie zu decken. Nun umfassen die ersten 6 Gruppen zusammen 76% aller Landwirtschaftlichen Betriebe. Rechnet man auf den Betrieb $3\frac{1}{2}$ Personen, so handelt es sich Hier um eine Bevölkerung von etwa 15 mil. Menschen, die von der Erhöhung der Getreide Preise keinen Vorteil, Ja, mit wenigen Ausnahmen direkten Nachteil durch die Verteuerung der Lebenshaltung haben werden.

即ち彼の意見に依れば全農民中穀類價格の騰貴に依りて利益するものは二割五分に過ぎずと云ふなり、斯の如く農業保護關稅は農業に從事する人々の全體を利益すと云ふ可らず況んや一般勞働者又は第三者に物價騰貴の影響を及さずして獨り其利益の方面をのみ期待し得可きに非らざるに於てをや、果して然らば如何なる方法を以てすれば他の階級に迷惑を及ぼすことなくして農民のみ其利益を收め得可きやと云ふに農民自身の奮勵努力に俟つの外なきなり、即ち耕作技術の改良、開墾の增進其他に依りて農業生産物の數量及品質を增加する場合に於てのみ此目的は到達し得らる可きものとす、現獨逸帝國宰相ベートマン、ホルウイックの如き一面に於て尙ほ農業保護の必要を認むる政治家なりと雖も然も以上の點に關し又考ふる所なきに非らざるは左の演說筆記の一端に依りて之を窺知す可し。

Der aufschwung der Landwirtschaft beruht nur zu einem Teil auf den besseren Preisen, zu einem anderen, und nicht zu eienem kleinen, auf der besseren wirtschaftsführung. Aber auch die ist bekanntlich nicht ohne Geld zu haben.

誠に此の言の如く農事の改良と進步は農産物の價を騰貴せしめずして獨り農家の好景氣を促すに足るものあり、然も此改良と進步とを導かんが爲めには資本の

必要なること獨逸宰相の言明せる所の如し、然りと雖も大地主輩を除くの外一般の農民に資本の缺乏しつゝあるは殆んど世界共通の事實とも云ふを得可し、されば農家の負債は此間に累積せざるを得ざるなり、而して農民唯一の資本たる耕地其物は抵當の目的物として最も好適なるが故に之を抵當に供して資金を求むる其結果は益々土地の兼併を盛ならしむる傾向あるや爭ふ可らず、斯の如くにしてアブセンチズムは生じ、小農保護の必要は今更らに識者の注意を促すに至る可し、されば農民に對し資金供給の途だに遺憾なきを得ば之れが爲めに農事の改良は實行せられ之を内にしては集約的方法に依りて既墾地の收穫を增加せしめ之を外にしては新たに開拓に從事し若しくは疎水灌漑等に依りて同じく農産物の産額を增加するに難からずと云ふ可し、而して農民が主として斯の如き方面に發展し來るに於ては他の階級に對し何等の迷惑を及ぼすことなくして自家の利益を增進するを得可きなり、同時に斯くの如くならんには保護的關税は必ずしも農業に必要缺く可らずと稱するを得ざるなり。（續く）

民族の企業化（下）

阿部秀助

五

中世にありて資金の需要を促せし源因としては、其の間、自から積極的、消極的の二面あり、卽ち前者にありて、著しき源因たるもの四つ、第一は都市の增加、發達にして、彼の商業の隆盛、手工業の特殊化、及之れに關連して新慾望の發展は、自から一面に於て資金の需要を惹起せしものにして、殊に「ニュルンベルグ」の如き砂質の瘠土上に築かれし都市にありては、此要求は最も切實なりしものなりとす（一）第二は宗教的方面の要求にして、當時、歐洲諸國に於て建立せられし莊麗なる寺院には巨額の造營費を要し、爲めに町人の手を煩せしもの少からず、其一例を擧ぐれば「キョルン」市寺院の建立費が「ボロニヤ」（以太利）町人によりて融通せられしが如し（三）又た各地方に於ける僧侶の中には、高位高官に登らんが爲め、羅馬の大本山に巨額の貢をなす結果、資金の需要を必要とせしもの多し、第三は政治上の君主、殊に諸侯が戰時用の費